

川崎市ラグビースクール案内

川崎市ラグビースクール校長
渡邊 信博

1 ラグビースクール開設の趣旨

美しい緑の上で、あのボールを天まで蹴ってみたい。子供達の心の中をかけめぐると楽しい夢は、泉のように湧き出てくる生命の躍動であります。その夢をその躍動を遊戯からスポーツへの架け橋として、美しく育てていくことは子供たちにとって大きな喜びであると同時に、国民の体位体力向上のためにも、また、スポーツの振興の上からも重要な布石であり、強いては社会の進展にも明るい一歩を進めるものではないかと思えます。

子供達の発育の途上で、遊戯からスポーツに移る少年期は、丁度稲穂の出始める時期にも等しい時で、この期にないがしろにされたトレーニングは再び取りかえすことは出来ないと言われています。

また、子供達の環境は、家庭から学校へ、そして社会へと自然に移りかわります。それは、何れも大切な教育環境であります。その中で子供たちに最も協力してやらなければならないのは社会環境ではないでしょうか。

おもいきり駆けまわってみたい、おもいきり転がってみたい、おもいきりボールを蹴ってみたい。そして、「一緒に遊んだ仲間と手を取り合ってひとつの事を成し遂げる。」その精神を、子供達の心身の健全な発育を願い、川崎市ラグビーフットボール協会が川崎市教育委員会の後援を得て、恵まれた環境と優れた指導者を相携えて、ここに川崎市ラグビースクール（以下スクールと記す）を開設した次第であります。

2 指導の精神

クーベルタンが、人類の理想を目指してオリンピックの再興を思いついたのは、イギリスのパブリックスクールにおける少年達のスポーツに感動したためであると言われていいます。

そのイギリスのスポーツは、ラグビー校（パブリックスクール）における、時の校長トーマス・アーノルドが少年たちに試みたラグビーフットボールグループの育成が端緒となったものであります。

当時のイギリスは、産業革命の波が社会生活の混迷を招き、青少年の心の中にも大きな影響を与えていました。その時に社会の悪い環境から子供たちを守り、更にその悪い風潮にも負けない力強い精神力を持たせようとしたのであります。そして、スポーツを通じて行った彼の革新の成功がイギリスのスポーツを世界のスポーツたらしめた所以であります。しかし、彼の試みも当時の牧師さん達は、精神を育むためにスポーツをするのはお門違いであるといい、先生達は学力が低下するとして容認しなかったし、また、お医者さんは軽率であるといって反対したのであります。しかも、新聞は一斉にこの反論を支持する等およそ賛意を表する人は何処にも見当たらなかったのであります。この世論の壁を打ち破ったのは子供達自身の熱狂的な歓迎と、たくましい青年に成長することを願った母親の賛成だったのです。

アーノルドは、少年たちがグラウンドでやっている自由な努力に信頼をおいて、スポーツグループの取締りを彼等に一任していました。そして、規律の維持やその中での責任については彼等自身の自律を尊重したのであります。それがフェアプレイを語る自負となり「ノーサイド」(no side)の精神を世界に広げる基となっていったのです。

ラグビーは試合が終わるとレフリーは「ノーサイド」を宣します。それは今迄の敵味方を解いたら何れの側でもなく、みんな一つの友情で結ばれたグループであるという意味であります。そして全員が一同に会して必ずミーティングを行うのが習わしになっています。また、ラグビーが雨の中でも日程を変更しないで泥んこになってゲームをしているのは、一旦結んだ約束はそれがどんなにつらくとも必ず実行するということであり、そのためには、雨の日も風邪の日もいとわず何時如何なる事態にも対応できるように鍛錬を積み、日常の心掛けを怠らないのが人としての誠意であるという意味であります。

このようにして、汗と泥にまみれた子供達は楽しい遊戯の中で知らず知らずの間に、自律の精神を自ら学びとっていったのであります。これがラグビーの中で育てていった心身一如の教育であり、また、スポーツの真の姿であります。

3 指導の方針

スクールでは、次代を担う若者がラグビーを通じて体力の向上と豊かな人間性を図り立派な人間として成長することを目的としています。

そのためには以下の5点を指導の柱としています。

- ①指導者は常に安全を第一として考え、子供たちにも安全にプレーするための基本を習得させることを指導していきます。
- ②勝つことのみには価値を見出すのではなく、チームとして勝つことを目指すことに価値を見出す、とする考えの違いを理解できる指導をしていきます。
- ③ラグビーフットボール競技としての練習及びゲーム、他スクールイベントとしての各種行事を通じて、フェアプレー、情熱、チームワーク、規律、尊重、の精神を理解し、グラウンド内、外においてもそれらを実践できるよう指導をしていきます。
- ④ラグビーの面白さとスポーツとしての厳しさが実感できること、そして子供にあった感動を伝えられることができるよう指導をしていきます。
- ⑤ラグビーが好きでたまらない、ノーサイドの精神を大切するプレーヤーを育てていきます。

そのためにも、保護者の皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。